

11月7日(木) 午前快晴/午後曇・風なし、歩行約14.0km

朝食5:00。にぎり100円2個、ジュース100円。5:50出発。出発すると言っても、ここはどこか分からない。昨日、女性案内人に熊野古道への道を聞くことを忘れてしまった。電話を考えたが、電話での説明を聞いたとき、分かり辛いだらうから、とにかくヘッドラン



熊野参詣道小辺路登山マップ/三浦峠越

プを付けて付近の状況を見ることに。今日は三浦峠に登るのだからと、玄関を出て上り、突き当りの分岐をさらに少し上ると、何んと三浦口バス停と古道道標がある。念のため、さんや袋の登山マップを確認すると、間違いなく熊野古道である。だがしかし、進めどマップにあるガレージなるものに至らない。その時、丁度道路横の家に朝早いのに人影。尋ねると、直ぐその家の横を下るのだと言う。古道の標示がないので半信半疑で、その家の庭と思えるところの細い道を下ると、道に白線が引いてある。ガレージなるものの横、すぐ先に6:03古道標示、吊橋・舟渡橋があり、ほっとして渡り、今日の三浦峠に向け出発。

6:27三浦の湧水がある家など数軒の民家の間の石畳を上り、6:45吉村家跡に着。現在も石垣が残っており、解説板にある十津川村教育委員会によると、吉村屋は旅籠も営んでおり、昭和23年・1948年頃まで居住していたという。また、付近の杉の巨木は防風林と思われ、幹周り4~8mで樹齢500年前後と推定されるという。7:33二十五丁石、二十五の文字がようやく読み取れた。急な坂道を上り、崖に架かる丸太の階段を下り・上ると7:46三十丁の水。冷たい水で喉をうるおし、疲れをいやす。また、道の反対側に三十丁石と地藏道標。多くの杉林帯を通ったが、名木として有名な吉野の奈良杉となるのだろう。ようやく霧が晴れ、三浦口の集落を遥か下に望み、何回も崖道が崩落し修復した道や、ようやく片足が載る程度の細い道も上る。また、網を両側に張られた道や、何の電源となるのか分からないが

太陽光パネルも見かけ、8:48 今日の最高所・三浦峠 1080m に到達した。三浦峠は林道を横切る広場となっていて、東屋があり、大きな2つのリュックサックがあるのみで付近に人影なし。マップをみると、一歩手前に眺望が開けたところがあり、遠望を撮影。さらに少し向こうに2人連れの人影を見かけ、行ってみると、きれいなトイレがあり、その横裏側からは何も遮るものがなく、非常に良好な眺望で2人連れは恋人か夫婦か男女で、昼食直後。東屋に置いてあったリュックはこの2人のものと納得。近寄ると、「こんにちは」、「こんにちは。カメラのシャッターを押してください」と言うと、「日本語、わからない」とのこと。そこで、単語を並べただけのような、拙い英語と手振りでも説明すると、理解してもらえたようで、撮影してくれた。この度の参詣で初めて筆者を写してもらい、絶景とともに一層の感激。



6:03 まだ薄明りの吊橋・舟渡橋



6:27 民家横の石畳の古道



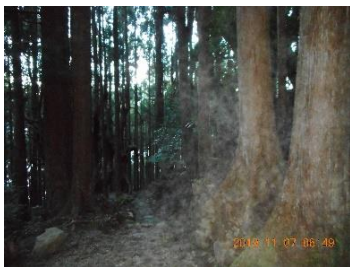
6:33 五百瀬・三浦口集落は濃霧・雲海の下



6:45 吉村屋敷の大杉の防風林



6:48 吉村家跡



6:49 杉林中の道



7:33 二十五丁石



7:42 崩落後に整備された丸太階段



7:43 樹林の合間より望む



7:46 三十丁の水



8:06 奈良杉となる杉林中の古道



8:19 五百瀬・三浦口集落を望む



8:23 崩落個所を修復



8:29 崩落個所にハシゴが架かっている



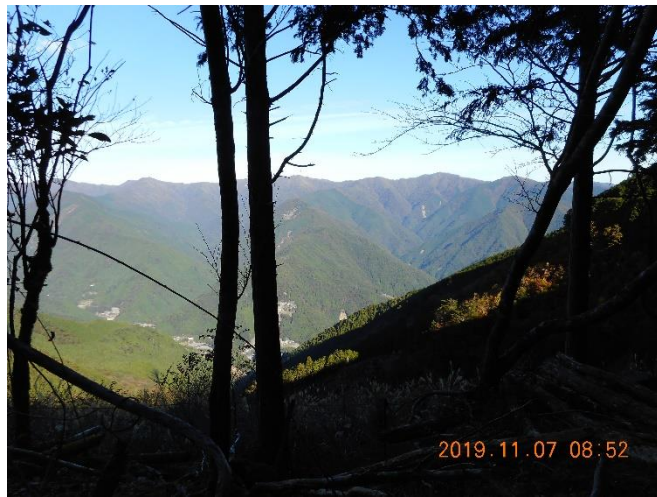
8:36 霜が残っている古道



8:43 こんな所に太陽光パネル



8:48 三浦峠の東屋



8:52 遠方の山々



8:56 熊野の山々を背にする遍路姿の筆者/三浦峠 1080m にて



8:57 同姿の筆者/太陽光のため山々は写らず

感激の三浦峠から 9:00 下山開始。防護柵の間の道を下り、9:30 古矢倉（ふるやぐら）跡。解説板によると、「熊野めぐり」に三十六丁下れば茶店二軒有、と記されている。また、屋号を古矢倉と言ひ、茶店兼旅籠があったが昭和 10 年には廃屋となったという。やや急坂を下り、10:10 出店跡。石垣が残っ

ており、十津川村教育委員会の解説板には、かつては茶店・旅籠があったが、明治 43 年・1910 年に廃屋になった。昭和 20 年代の末頃までは、今西の人が遠方の谷から水路を作り耕作したといわれた水田がこの周辺にも何枚もあって、豊かな田園風景だったという、と記されている。さらに下り、10:41 遙か彼方の今西集落を望み、10:47 苔むした小さな五輪の塔。右側が崖になったところを通った後、11:40 矢倉観音堂。解説板には、観音堂は昭和 30 年・1955 年に建て替えたもので、堂内の中央に如意輪観音菩薩座像、左に地藏菩薩立像、右に観音菩薩らしき三体の石仏像が安置されている。如意輪観音菩薩座像は見るからに新しいが、台石は別時代のもので、大坂天満市場山家屋彌兵衛と刻まれている。また、左の地藏菩薩立像には京保十年・1725 年の銘が見られる。と記されている。丁度、下って来た 2 人連れの若者に観音堂を背にして写真を撮ってもらった。民泊岡田で買ったパンなどで昼食をして 12:05、樹林帯の古道をさらに下り、無人の古民家の前を通る。12:44 熊出没の立て看板。以前も 2 回見かけた。12:47 湧水が引かれており、喉をうるおす。

13:24 国道 425 号線にある西中バス停。古道は、昴の郷までこの国道に飲み込まれ、失われているとの情報なので、次の宮の平バス停まで歩き、時間待ちの後、バスに乗り、予約した十津川温泉の旅館・平谷荘前まで行った。14:30 平谷荘着。平谷荘は原泉かけ流し 100%天然温水の温泉岩風呂があり、また別途に十津川が良く見える完全露天風呂があり、両方の風呂にゆっくり入り、今日の疲れをいやした。なぜか宿泊者は筆者のみ。また、下着などを初めて洗濯した。2 食付 12,400 円。温泉料・税 250 円。大瓶ビール 840 円。明日のむすび弁当 770 円。17:50 夕食はさすがに温泉宿、多品目。

今日の参詣・登山は、約 400m の三浦口から 1080m の三浦峠に登り、約 260m の西中に下った。標高差約 680m・約 820m を登・下山だったが、三浦峠からの下山は比較的楽で、また源泉かけ流し 100%の露天風呂で、大分負担が溜まってきている膝関節軟骨摩耗の足、明日も参詣を続けられそう。



9:33 古矢倉跡



10:10 出店跡



10:36 樹林帯の古道



10:41 今西集落(真中)を望む



10:47 苔むした五輪の塔



11:43 観音菩薩(中)



11:44 如意輪観音菩薩座像(右)
と地藏菩薩立像(左)



11:47 矢倉観音堂前の筆者



12:19 樹林の小辺路



12:44 クマ出沒の看板



12:47 湧水が引かれている



13:09 杉林の古道を下る



13:24 西川・国道に至る



14:32 十津川温泉の平谷荘

11月8日(金) 午前曇/午後晴・風なし、歩行約 10.4km

朝食 6:30。7:20 出発。国道 168 号に架かる柳本橋・赤い橋を渡った所から熊野古道に入らず、四国三十三観音石仏のうち、第 33 番から第 31 番を巡るために国道を進み、樂砂古バス停から急な石段を上った。四国三十三観音石仏は八木尾の第 1 番から果無峠の第 17 番、果無集落の第 30 番を経て、ここ樂砂古の第 33 番まで、山道沿いにあり、十津川・新宮・本宮の信者達が大正 11 年・1922 年から大正 12 年にかけて寄進・造立したもので、現在は地元の人々によって大切に守られているそうである。なお、この観音石仏は見落とした第 31 番、24 番を除き、33 番から 17 番までをまとめて載せることにする。急坂を上るうち、第 31 番観音石仏を見落としたが、8:34 果無集落に着いた。果無山脈は紀伊半島の中央にあり、最高地点でも 1000m を少し超える程度だが、果無(はてなし)の地名が生じたのは、江戸時代の「日本輿地通話」に谷遙かにして嶺遠し、困りて無果、と記されているように、行けども行けども果てしなく山道が続く様子からであるという。



17:52 平谷荘の夕食御膳

果無集落は天空の郷といわれ、日本の昔ながらの原風景である良きのどかな風情が残っていて、にほんの里 100 選にも選ばれている。かつては宿屋だったといい、90 歳のおばあさんが縁側に腰かけた観光ポスターやガイドブックなどの写真で有名になった大きな古民家。この古民家の敷地を古道が通り、横には水を引かれ大きな鯉が泳ぎ、軒には干し柿が吊るされ、昔の風景を思い出させる番傘とわらじ、それに小さな菅笠とわらの編みくつが掛けてあり、古道の反対側にある納屋の前には松の木をくりぬい

て作られ
花を生け
た水場が
参詣者に
用意され
ていた。また、世界遺
産熊野参
詣道小辺
路と刻ま
れた大き
な石が建
ち、集落
の両斜面
に広がる
畑と、遠く
に連なる
果無山脈
が壮観、真



熊野参詣道小辺路登山マップ/果無峠越

に天空の郷であった。石畳古道の急な坂を上り民家の軒先を通った後、四国三十三観音石仏中、唯一の仏でなく馬頭の観音の第 29 番。石畳を上り、第 27 番観音石仏の所では、昨日、三浦峠で筆者を撮影してくれた欧米の 2 人連れが追いついてきた。遍路姿から分かったようで、「こんにちは」といったら撮影の手振り、「ジャストモーメント」と言い、さんや袋から輪袈裟を取り出すと、「オー」と感嘆の声。遍路正装姿をして第 27 番観音の前で取ってもらえた。

長い急坂を上がり 9:54 天水田跡。遠くに果無の山々を望める所で、解説板によると、この辺はかつての水田跡で、ここから約 300m 峠寄りにあった山口茶屋の住人が、雨水だけを頼りにして稲作をした跡で、水田は数枚あった、という。10:09 山口茶屋跡。ここにも石垣の跡があり、防風林と思われる巨大な杉がある。第 24 番観音を見落してしまっているが、観音石仏を撮影しながら、急坂を上ると 10:53 宝形造りの果無観音堂に。奈良県十津川村教育員会による解説板に、堂内には、中央が石造丸彫り聖観音菩薩座像、左が舟形光背石造半肉彫り十一面千手観世音菩薩像、右が火焰後背をもつ石造肉厚彫不動明王座像が祀られている。この付近には、通行の安全を祈願したものか、古くから観世音菩薩が祀られていたようである、と記されている。また、観音堂の横には水場・給水所がり、喉を潤すとともに、ペットボトルに補給した。第 21 番は尾根側に少し上がった所にあり、ここからは川沿いの十津川温泉と遥か彼方の釈迦ヶ岳 1800m、仏生ヶ岳 1805m など大峯奥駈道の大峯山脈を一望でき、おおー、感動。長い階段を上り、道が狭くて崖になったところを登ると、やっと 11:50 広場になっている果無峠。周りは雑木林で、峠からの眺望はないが、宝篋印塔（ほうきょういんとう）の台座があり、いにしえの峠をほうふつとさせられた。また、その横には観音石仏第 17 番。平谷荘のむすび弁当で昼食。



7:27 十津川と柳本橋



7:38 十津川の左手に十津川温泉



8:12 急坂の石畳



8:34 果無集落にある標示



8:39 引水中の大きな鯉



8:39 観光ポスターなどになった大きな古民家



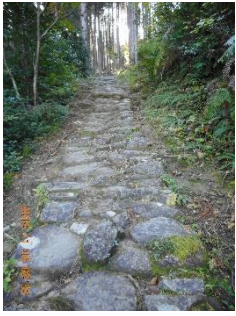
8:41 参詣者に用意された水場



8:41 掛けられたわらじなど



8:49 天空の郷・果無集落における壮観



8:56 石畳の古道



9:05 民家の軒先を通る



9:06 石柱の道標



9:07 観音石柱の道標



9:19 急坂の石畳



7:45 第33番



8:09 第32番



8:54 第30番



9:15 第29番



9:22 第28番

四国三十三観音石仏(1)



9:31 第27番



9:38 第26番



9:51 第25番



10:25 第23番



10:32 第22番

四国三十三観音石仏(2)



10:44 第21番



11:02 第20番



11:21 第19番



11:38 第18番



11:53 第17番

四国三十三観音石仏(3)

四国三十三観音石仏には、舟形光背に半肉彫りないし厚肉彫りの観音像が彫られており、その観音の表情などに全て違いがあり、興味深い。また、光背には札所(第・番)と観音名、台座には造立年月日と施主が刻銘されている。



第 22 番札所の観音像



第 17 番札所の観音像



9:32 遍路正装姿の筆者/第 27 番観音石仏前にて



9:54 天水田跡



10:06 木板の階段道



10:09 山口茶屋跡



10:57 観音堂の菩薩 2 体と不動明王



10:58 給水所



11:19 十津川温泉と遥か彼方の修験道・大峯山脈を望む



11:46 果無峠近くの古道

またも急な長い坂道を注意しながら、ひたすら下り、樹林の合間から熊野川を見下ろすこともでき、青紫色の花（キランソウだろう）を何度も見て、心とまされながら進み、13:54 誕生石の標示。しかし、誕生石とはどの石なのか分からない、小さな観音石仏があるが、第 11 番なのだろう。14:00 三十丁石。三十の文字がはっきり読める。また、ここには和歌山県本宮町を望むとの標識があり、今回の小辺路参詣の終点熊野本宮大社方面がよく望めた。さらに下り、14:36 蛇行する熊野川を眺め、観音石仏第 9 番、8 番を通った後、土手の上にある 7 番は飛ばして、なだらかな坂、急坂を繰り返して、木の階段を下って、舗装された林道に合流。土手の上にあるはずの観音石仏第 2 番を見落とし、民家の庭先を通過して 16:10 八木尾バス停着。マップによると、ここから本宮大社までの 4.6km の間にある参詣すべきところは、三軒茶屋跡と祇の王子しかない。しかも、筆者は明後日には広島県立福山工業高校機械科昭和 37 年卒の喜寿記念クラス会が尾道であり、是非出席したい。左足が相当痛くなってきており、大事を取って、バスに乗り本宮大社へ行くことにした。バス停の時刻表をみると、便数が少なく次は 16:48。待ち時間があるので、マップによると小高い丘の上の旧八木尾公民館の庭にある観音石仏第 1 番をいくら探しても、公民館が見つからない。離れた所からは、小さな公民館で民家と区別出来なかったようである。



11:51 果無峠



11:52 宝篋印塔の台座

16:58 本宮大社前着。大社参道の階段に行くと、2 人連れの若い女性が丁度下りてきたので、参拝し御朱印を頂けるのは何時までか知らないかと聞いた。すると、朱印所で 17:00 までだがと言われながら、3 分過ぎに頂いている人がいたので、まだ大丈夫かもとのこと。それでは、これから年寄が参拝するので、再度上がって頼んで欲しいと言うと、1 人が駆け上がった。筆者もそろりそろりと石段を上がっていると、早くも女性が下りてきて、頼んだら大丈夫だったとのこと。御朱印と参拝が後先になってしまったが、無事高野山から本宮大社に古道・小辺路を参詣出来たことを報告・お礼。

本宮大社より約 800m のところから、湯の峰温泉への道に入り少し、予約した蒼空げすとはうすに宿泊。朝食付 7800 円。自販機の缶ビール 350mℓ 240 円・梅チューハイ 350mℓ 140 円。近くの飲食店に入っていることを止め、持ち帰ってしまうことになる残りの持参のパン・チーズ・オレンジで、個室の部屋で小辺路参詣終了を祝して一人乾杯・夕食。

今日の最終参詣・登山は、約 260m の西中から 1114m の果無峠に登り、約 110m の八木尾バス停に下った。標高差約 850m・約 1000m を登・下山だった。途中の道の険しさなどの違いがあるが、単純に登・下山の標高差を加えて 4 日間を比べると、1 日目が 510m、2 日目が 1400m、3 日目が 1500m、今日・4 日目が 1850m と次第に大きくなっている。足の痛みが酷くなるはず。



13:00 樹林の合間からの遠望



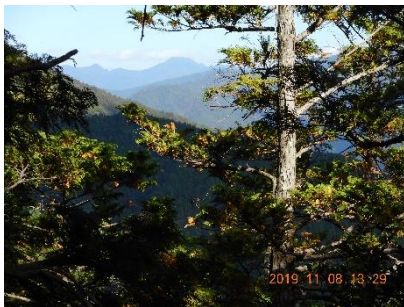
13:05 キランソウだらう



13:07 樹林帯尾根の古道



13:08 キランソウだらう



13:29 遠望を樹林合間から



13:54 誕生石



14:00 和歌山県本宮町を望む



14:02 三十丁石



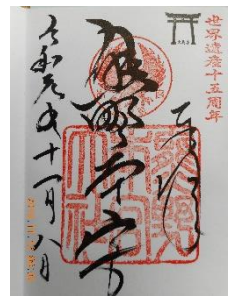
14:36 蛇行する熊野川を望む



16:16 熊野川と八木尾橋



17:19 熊野本宮大社拝殿



熊野本宮大社御朱印・墨書



12:33 第 16 番



12:48 第 15 番



13:19 第 14 番



13:41 第 13 番



13:52 第 12 番

西国三十三観音石仏(4)



13:54 第11番

14:31 第10番

14:41 第9番

14:48 第8番

15:05 第6番

西国三十三観音石仏(5)



15:14 第5番

15:34 第4番

15:49 第3番

西国三十三観音石仏(6)



第10番札所の観音像

11月9日(土) 晴

食パンなど洋風朝食 6:30。7:30 出発。高さ約 34m・幅約 42m の日本一の大鳥居などの近くを通り、本宮大社前・始発便 8:30 のバスには筆者 1 人のみが乗車。途中、乗車する人が時々その後、3ヶ所の温泉地では日本人よりも圧倒的に多くの欧米の人が乗車し満席。9:49JR 新宮駅着。10:28 新宮駅発特急くろしお 20 号、14:50 新大阪駅着。のぞみ 30 号で東京へ。18:39 北習志野駅、18:55 自宅。



7:36 蒼空げすとはうす



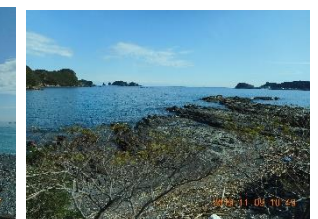
7:47 杜大な大鳥居



9:25 車窓/太陽光パネル



10:31 車窓/熊野灘



10:49/紀伊田原海岸

和歌山県の高野山から奈良県を経て、和歌山県にある熊野本宮大社までの 57km (バス乗車区間を除く) を 4 日間で歩き参詣した。この間に神社は一つもなく、むしろ登山のようで、険しかったが、この過程が修行となり今後、幾多、幾程の困難にも立ち向かえられそうである。そうは言えども現在、膝関節ばかりでなく、全身創傷の我が身体、今後も一日一日に気を付けて過ごしたいものである。